

オルガン奉獻に寄せて

日本基督教団 仙川教会
牧師 大串肇

「息あるものはこぞて主を賛美せよ。ハレルヤ。」(詩編 150 : 6)

宗教改革 500 年祭という記念すべき年に、わたしたちは礼拝堂を新たに建設し、パイプオルガンを設置致しました。

宗教改革者 M・ルターは、聖書に基づく説教を通して福音を宣べ伝え、神を賛美することを説きました。以前ルターやバツハの活躍した旧東ドイツの教会を訪問した時、長い間東西に分断され、抑圧されていた教会が懸命に再建に励む姿に出会いました。彼らは、ルターの訳した聖書を受愛し、説教を通して力強く福音を語り、パイプオルガンによって神を賛美し、バツハの曲等を演奏して人々に伝道していました。説教と賛美。これが 500 年を経ても変わらないドイツプロテスタント教会の伝統であり、宗教改革の精神です。

ところで、前掲の詩編 150 編は、いろいろな楽器をもって神を賛美するために、「ハレルヤ」(＝「主のほめたえよ」)という呼びかけをもって結ばれています。また、イザヤ書 6 章では、「聖なるかな」の合唱が神殿の中に反響しています。その中でイザヤが預言者とされました。この情景が、ドイツ・バロック様式の礼拝堂の原型になりました。神殿という礼拝の場で、いろいろな楽器を用いて、誰ひとり区別もなく、声一つにして神を賛美する。この原型は宗教改革の時代よりも更に古代の礼拝、聖書の源流に遡ります。

皆が声を合わせて一つになる。これが神賛美の本質です。神賛美の世界には美しい音楽を奏でるオルガンのような楽器は必要であっても、ミサイルや兵器は必要ありません。差別や格差も要らないのです。まさに「息あるものはこぞて！」一人類だけでなく一生きるものすべてが神を賛美することに招かれています。この究極の愛と平和とが、神賛美の通奏低音になっているのです。わたしたちは今、新しいオルガンをもって心から神を賛美し、世界の平和のために祈りたいと思います。



ライル社工房で製作中



お台場でコンテナから
トラックに積替え



パイプオルガン設置の経緯

- 2011 年 11 月 パイプオルガン委員会設立、パイプオルガン導入のための調査、協議を開始。
- 2012 年 4 月 2012 年度定期総会で新会堂にパイプオルガンを設置することを可決承認。
- 2012 年 7 月 オルガン設置アドバイザーを関本恵美子氏(恵泉女学園大学准教授)に依頼することを決定。あわせてオルガニスト養成のためのオルガン講習会講師を依頼。
- 2012 年 12 月 会堂建設にあわせライルオルガン製作所のパイプオルガンを導入することを臨時教会総会で可決承認。ライルオルガン製作所と正式に契約(12月19日)。
- 2015 年 3 月 ライルオルガン製作所社長ハンス・ライル氏による講演会開催(3月21日)。
- 2016 年 3 月 オランダのライル社工房でオルガン製作開始。
- 2017 年 3 月 工房で完成したオルガンが一旦解体され、コンテナに積み込まれてロッテルダム港出港(3月8日)。
- 2017 年 4 月 東京・大井埠頭入港(4月18日)、通関手続き。
- 2017 年 5 月 教会へ搬入、組立作業開始(5月3日)。
- 2017 年 6 月 整音終了、オルガン完成・鍵の引き渡し(同23日)。
- 2017 年 6 月 オルガン奉獻(6月18日)。

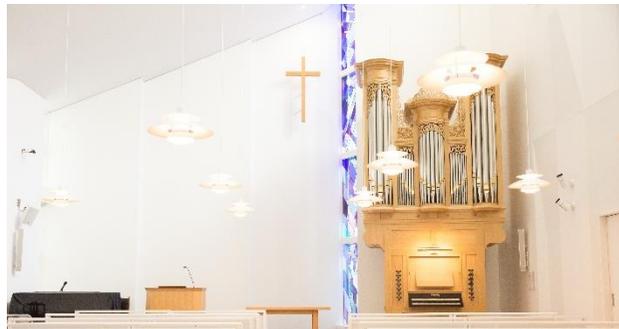


教会内へ搬入



一番重い風箱を設置

礼拝堂での組立の様子



組立終了



整音終了、オルガン完成